撒布前	420	433	539	417	517
撒布後	0	6	0	6	216
死亡虫	420	427	539	411	301
殺虫率	100	98.7	100	98.7	58.1

第4表　薬剤各区に於けるダイコンアブラムシの棲息数（2区合計数）b

項目	A製品		B製品		硫酸ニコチン
	2000倍	3000倍	2000倍	3000倍	800倍
撒布前	60	139	46	174	379
撒布後	0	9	0	14	734
死亡虫	60	130	46	160	(355)
殺虫率	100	93.6	100	92.0	

第5表　各濃度区に於ける虫数

調査時期	5000倍				4000倍				3000倍				2000倍	
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ′	Ⅱ′	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ′	Ⅱ′	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ′	Ⅱ′	Ⅰ	Ⅱ
撒布前	101	183	66	88	184	125	64	117	78	166	94	29	94	29
撒布後	56	86	24	32	96	147	63	63	217	140	118	76	118	76

備考　数字は虫数を示す。撒布前の虫数は生虫、即ち葉上の虫数で、撒布後の虫数は水面落下虫数である。
Ⅰ′ Ⅱ′は展着剤を加用した区を示す。

第6表　各薬剤区に於ける虫数

	撒布前卵嚢の数		撒布後の生虫数		撒布後の死虫数	
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ
TEPP	29	10	0	0	17	321
硫＋BHC	72	38	13	187	1544	23
硫＋硫亜	10	34	51	719	75	411
無撒布	34	44	315	971	3	8

備考　数字は10葉合計虫数である。

この場合はダイコンが幼少なため撒布しにくく硫酸＝コチンの効果は少く，又，非常に効果にむらがある。しかし，TEPPは両製品とも効果が適確で，好適濃度は大体2000倍乃至3000倍程度と考えられる。

D. ツマグロヨコバイに對する効果　現地の多発田を用い2回反覆として試験した。調査に當つては撒布の前と後とに葉上虫数と水面落下虫数とを記録した。その結果は第5表の如くである。

即ち，本種に対しては効果が顕著で濃度は大体3000倍を限度とする。展着剤加用の効果は明かでない。なお，撒布後の効力持続期間は濃度によつて差を見るが，大体2～4時間程度と考えられる。

E. 柿のオオワタカイガラムシモドキに対する効果　當場内で本種の多く寄生している1本の柿樹を選び，その枝を使用しTEPP2000倍，石灰硫黄合剤＋BHC，石灰硫黄合剤＋硫酸亜鉛を幼虫孵化直前（6月5日）に撒布し，その後の虫数を各區とも10葉について6月27日に調査した。その結果は第6表の通りである。

即ち，本種に対してTEPPは他の2種薬剤よりも効果が高いようである。又，BHC 或いは硫酸亜鉛加用の石灰硫黄合剤は卵嚢中の幼虫を殺すことはできるようであるが，TEPPでは明らかに卵嚢内の幼虫まで死滅するようである。

（富山農試　昭27）

大豆月夜病に関する試験成績

杉山章平

新潟縣中魚沼郡上郷村で昭和27年迄に行つた大豆月夜病の試験成績を概報すると次のようである。

1）同村の信濃川右岸の火山灰洪積台地で大豆

を連作すると，所謂月夜病に侵されるが，之は *Heterodera glycines I.* と云う線虫に起因する黄萎病である。

2）大豆の根が本線虫に侵されると，根瘤の着生は極めて少い。その原因は不明である。

3）此の爲に大豆はN飢餓に陥り，その影響が生育の轉換期に現れて，葉は黄變し，所謂月夜病と云われる症狀を呈するものと考えられる。收量は健全のものに比し1/5位である。

4）根瘤が發生しない爲に生ずるN飢餓を肥料の程度，施用の方法によつて防げるか否かを試驗した。

5）その結果は，N源として石灰窒素が最良の成績を示した。之はN供給の持続性の強いことによるのであるまいか。シアナミドの線虫に対する毒性も一応考えられてよいが，その確証はない。石灰窒素を用いても線虫は寄生するからである。石灰窒素は播溝に施用，間土して直に播種するのがよいようである。

6）*EPN, Folidol* の様なパラチオン劑の根部えの施用は，收量を稍々増す傾向があるようであるが，無施用に比し5％の有意差を示したのは，*Folidol* の乳剤及粉劑の根部施用に於て完全粒数のみであつた。

7）堆肥を加用することは，上記パラチオン劑の施用よりも有効のようで，完全粒数，完全粒重に於て無加用と5％の有意差で優れた。

8）従つて，目下の処では，N源として石灰窒素を用い，之に堆肥を加用することが実際には最良と考えられる。

9）併し輪作が之に優先すべきは勿論である。

10）稗貫1号は月夜病に抵抗性が強い。併し線虫の寄生が少いと云うのでなく，線虫は他品種と同様に寄生するが，根瘤も多数發生する。従つて月夜病徴を示すことなく，收量も非常に多い。上記諸処理に比し，1％の有意差で，1.5—2.倍の收量が得られた。

11）稗貫1号に於て，他品種に見られるような，線虫の根瘤菌に対する優勢が見られない原因は不明である。

12）このような抵抗性の強い品種を探索することは緊急の課題である。　（北陸農試　昭28）

大豆ハマキムシの捲葉と大豆播種期及び播種密度との関係（予報）

杉山章平・川瀬英爾・山内昭

1. 捲葉とハマキムシとの関係

奥羽13号，新3号を8月8日に抜取り，各分枝及各葉位別に捲葉の分布について調査した結果は第1表の如くである。

第1表　品種，部位，節位別にみた捲葉の分布

品種，部位 ＼ 節位		Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	ⅩⅠ	ⅩⅡ	ⅩⅢ	ⅩⅣ	ⅩⅤ	ⅩⅥ	ⅩⅦ	ⅩⅧ	ⅩⅨ	ⅩⅩ
奥羽十三号	基葉	—	—	4	0	9	19	20	37	33	29	26	22	18	8	4	1	0	—
	分枝葉	72	119	83	61	56	38	18	6	0	2	1	0	1	—	—	—	—	—
新三号	基葉	—	—	—	—	—	6	6	8	6	9	16	16	8	3	2	5	1	0
	分枝葉	12	59	109	95	61	39	19	28	7	5	4	1	—	—	—	—	—	—

備考　奥羽13号19個体、新3号20個体の合計値